

あきた衆院選 2021

一票の意義 どう考える



公約訴える重み実感

衆院選は31日、投票を迎える。投票率の低傾向が弊本県だが、生徒(活動や日々の生活を通じて)公約の意義を考える人たちの声も、「一票を投じよ」とする、その声を聞いた。



仁賀保高校生徒会

にかほ市の仁賀保高校(100人)で生徒会役員を務める3年生は、昨年11月に約を訴え選ばれた。立候補した経験、1年間の生徒活動を通して、公約を訴えることの重みを実感。選挙そのものを身近に感じられるようになった。

「社会変えるのは大変」

これまでの活動や選挙について話す仁賀保高校の生徒会メンバー。左から三好さん、木内さん、池田さん、鎌田さん

「裏面に開いては字だけなく住民にも意見を書き、訴える」「民権を得る最も大切なのは」「シートを夏休みに用紙として使った文化祭や、休みの文化祭の準備で時間が取れなかったという」

「政治って、正確に分らない。でも、投票には必ず行きます。その語句は、おひこん(36)とコンビを組む、卒業後上京、人気アパレルブランドを秋田で再開する」

「20代前半選挙自体興味がないと思ってる人が、同じことを感じていた気がした」

「一票を投じよ」と訴えられた。僕らよりもっと長く住んでいる人が、同じことを感じていた気がした。



お笑いコンビ「ねじ」 ササキユキさん

暮らしの疑問 諦めず行動を

現する女が人気呼んだ。新ジャンルオナールズ味になったといふササキさん。30歳を過ぎ、暮らしの中気になるといふ。秋田市に住んでいながら、秋田市にいない感じがする。

投票に対する思いを語るササキさん。お笑い活動での目標は、秋田を元気にすること、自身の一票によって、秋田の未来を託す。お笑い活動で実現したいことは、秋田を元気にすること、自身の一票によって、秋田の未来を託す。